

災害時小児周産期リエゾンの任命について

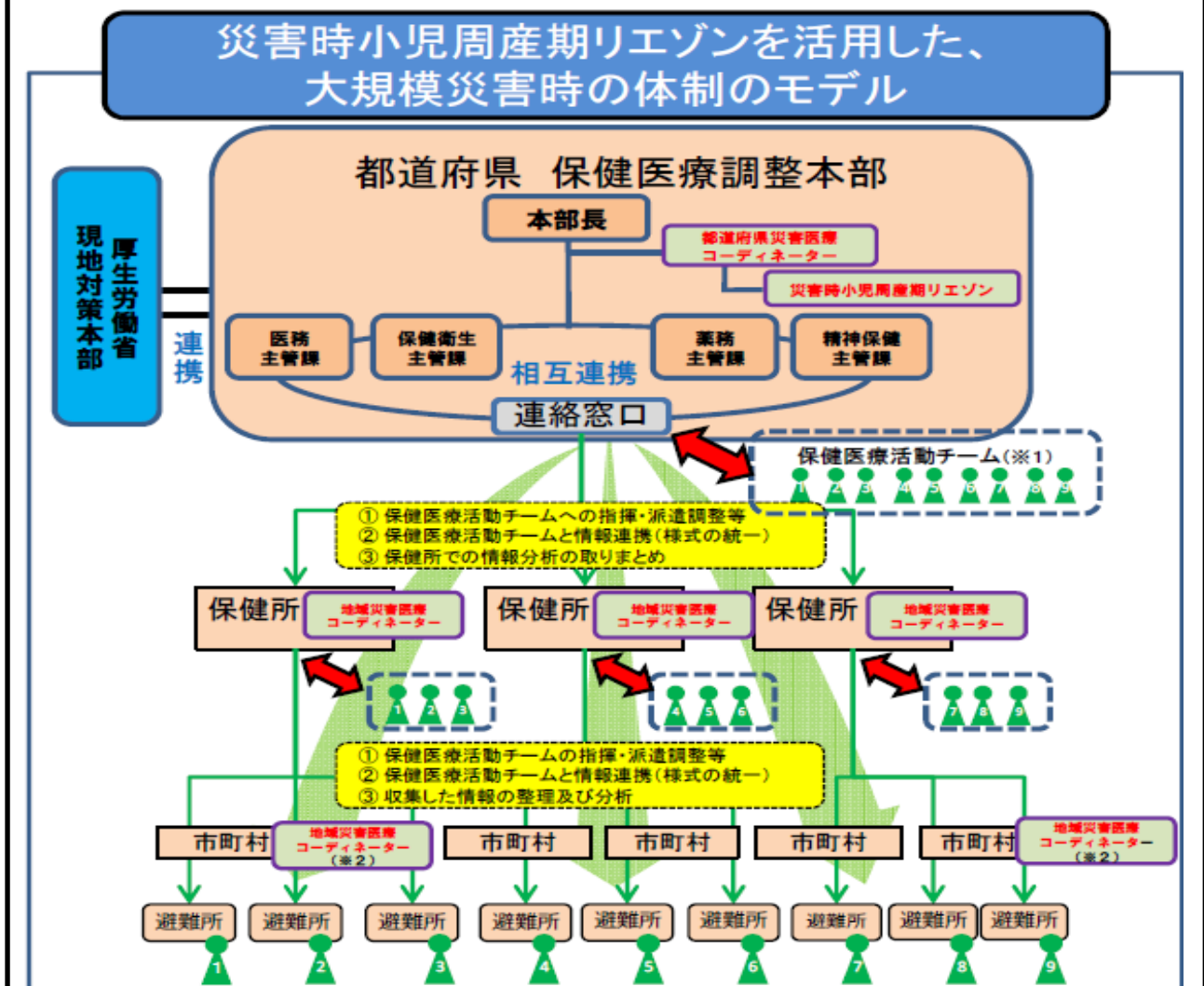
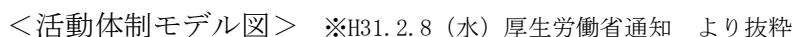
1 災害時小児周産期リエゾンの概要

災害対策本部等において、小児・周産期医療に関する専門的助言を行う「災害時小児周産期リエゾン（以下、「リエゾン」とする。）」について、国の養成研修が H28 年度から開始され、本県ではこれまでに 13 名を派遣している。

H31.2月には、厚生労働省から「災害時小児周産期リエゾン活動要領」が通知され、その中でリエゾンの役割が都道府県からの任命により都道府県の災害対策本部（保健医療調整本部）で災害医療コーディネーターをサポートすることと示された。

※ 災害医療コーディネーター

災害時に、都道府県が保健医療活動の総合調整等を適切かつ円滑に行えるよう、災害対策本部（保健医療調整本部）において、被災地の保健医療ニーズの把握、保健医療活動チームの派遣調整等に係る助言及び支援を行うことを目的として、都道府県により任命された者。



2 本県における運用について

本県では、既に災害医療コーディネーターが運用されており、その役割上リエゾンも同様の運用を取ることが望ましいと考えられることから、現在本県で運用されている災害医療コーディネーターの設置要綱・活動概要に倣いリエゾンの設置要綱案・活動概要案を作成したもの。

作成した案について、県の周産期医療協議会、災害拠点病院連絡協議会の委員・幹事に意見照会を行い、頂いた意見を反映させながら別添のとおり最終案を作成した。

3 リエゾンの参集・活動について

リエゾンは知事（医療政策室長）の要請により参集の上、小児・周産期医療に係る専門的助言が必要とされる事項に関して災害医療コーディネーター（DMA T活動期間中は統括DMA T）と連携して助言や調整の支援を行う。

| 招集する者 | 指揮する者 | 主な活動場所 | 調整範囲 |
|------------|------------|---|--------|
| 知事（医療政策室長） | 知事（医療政策室長） | 県災害対策本部支援室又は県災害対策本部保健福祉部（保健医療調整本部） (≒県災害医療支援ネットワーク会議) | 県全体 |
| | 知事（保健所長） | 市町村災害対策本部、地方支部、地域災害拠点病院又は地域周産期母子医療センター (≒地域災害医療支援ネットワーク会議) | 各保健医療圏 |

※ 別添「岩手県災害時小児周産期リエゾンの概要」を参照

4 リエゾンの任命・委嘱について

国の研修を修了した者の中から委嘱手続きを進めることとする。災害医療コーディネーターのように本部と地域を分けての任命は行わず、必要に応じて任命したリエゾンの中から地域への派遣を要請する者を選定する。

【参考：研修受講者の状況】

| 年度 | 受講人数 | 受講者内訳 |
|-----|------|--|
| 28 | 2名 | <岩手医大> 産婦人科医師1名 小児科医師1名 |
| 29 | 3名 | <岩手医大> 産婦人科医師1名 小児科医師2名 |
| 30 | 4名 | <岩手医大> 産婦人科医師1名 小児科医師3名 |
| R01 | 4名 | <岩手医大> 産婦人科医師1名 小児科医師2名 <県立中央> 産婦人科医師1名 |